

## 5年 英語活動指導案

日 時：平成20年2月15日(金)  
 授業者：HRT ALT Stephen Brivati  
 場 所：伊自良南小学校3階 ワークスペース

### 1 題材名 「Daily Life」

#### 2 題材について

「Daily Life」では、児童の家庭生活でのおもな活動を扱う。扱う活動として「play with friends」「watch TV」「play TV games」「listen to music」「study」「read」「go to juku」「play the piano」「eat dinner」「take a bath」など、児童が毎日のように経験することが予想されるものを選んだ。この単元では、それらの生活習慣を表す言い方をゲームを通して身に付け、仲間が学校から帰って、どのような過ごし方をしているか、たずねる会話を楽しむことができるようにしていきたいと考える。そのためにゲームを通して楽しみながらコミュニケーションスキルを身に付けさせるとともに、会話の必然性を設定する工夫をしていきたい。

#### 3 児童の実態(男子12名、女子10名)

英語活動で願う姿に照らし合わせたとき、児童の実態は次のようになる。  
 (・・・8割以上の児童が到達している・・・半数以上の児童が到達していない)

| 高学年部の願う姿          | 簡単な英語で活動しながら、気持ちや考えを誰とでも伝え合うことを楽しむ。  | 実態 |
|-------------------|--------------------------------------|----|
| 自己を表現する意欲・態度      | 自分が伝えたいことを覚えた英語を使って伝えようとする。          |    |
|                   | 場に応じた英語を覚え、活動で使おうとする。                |    |
|                   | 英語の音声の特徴に親しみ、まねて言うことができる。            |    |
|                   | 自分の思いを、身振り手振りを交えながら伝えようとする。          |    |
| 進んで人と関わろうとする意欲・態度 | 共感しながら誰とでも進んで活動しようとする。               |    |
|                   | 相手の反応を確かめながら、活動を楽しむことができる。           |    |
|                   | 分からないことがあったら、助け合いながら活動を進めることができる。    |    |
| 理解する力             | 英語を聞いて、場面に応じた行動をとることができる。            |    |
|                   | 相手の考えや尋ねたいことを理解し、簡単な英語で返事をするることができる。 |    |
|                   | 英語の音声の特徴をつかむことができる。                  |    |

場に応じた英語を覚え、それを使おうとする意欲がある。  
 相手の考えや尋ねたいことを理解する力や、簡単な英語で返事をする力は身につけている。  
 自分の思いを、身振り手振りを交えながら伝えようとする姿勢がやや弱い。  
 相手の反応を確かめながら、会話する姿勢がやや弱い。

### 4 指導にあたって

#### 研究主題

楽しく学び、豊かに自己を表現し、進んで人と関わろうとする子を育てる英語活動  
 ~ 楽しい英語活動を求めて ~

#### (1) 教科との関連

英語活動を通して、本校が願う児童の姿を具現化するためには、教科指導との関連を図って指導することが大切であると考えている。「豊かに自己表現する力」と「進んで人と関わる力」の2つについて、教科指導と英語活動の指導を関連させ相互作用するようにしながら力を付けてきた。

##### 豊かに自己表現する力

自分の思いや考えをもってこそ、豊かに自己表現ができると考え、教科指導では、学習課題を明確にし、一人ひとりが考えをもつことができる手立てを講じ、課題解決型の授業を仕組んできた。

##### 進んで人と関わる力

教科指導では、話し合い活動を大切にしている。特に話し合いを成立させるために、聞く力の指導を大切にしてきた。仲間の発言を聞き、同じ内容と違う内容を聞き分け、自分の考えと比較し、つなぎ発言をする指導から、人と関わる力を育ててきた。

#### (2) 学級経営との関連

英語活動を成り立たせるためのベースは、集団形成である。高学年部の願う姿「簡単な英語で活動しながら、気持ちや考えを誰とでも伝え合うことを楽しむ。」は、男女間の隔たりや反目、仲間への間違った優越感や偏見があっては、その具現化はできない。英語活動の時間だけで育てられるものではなく、学級経営との関連が密接でなくてはならないと考えている。

#### (3) 児童の実態を踏まえた指導

自己を表現する意欲・態度では、自分の思いを相手に伝えたいという強い願いをもって、取り組む姿勢がやや弱い。そのため、相手に伝える必然性を英語活動の場で設定し、ぜひ伝えたいという強い願いをもたせる指導が必要である。授業では、つたえ合うことでゲームが成立するという場の工夫をしたい。

進んで人と関わろうとする意欲態度では、相手の反応を確かめながら、活動を楽しむ姿勢がやや弱い。自分の伝えたいことを伝えるのに精一杯で、相手の反応を観察しながらコミュニケーションをとることができていないととらえる。そこで、自分の言いたいことを伝えるためのスキルを身に付けさせることが必要であると考えている。

### 5 人権教育の観点

会話を成り立たせるための基本の英語を忘れてしまったり、言えなかったりしたときに、相手の気持ちになって教えることができる。(行動力)